

令和7年度 岡山県立勝山高等学校
第3回 学校運営協議会 及び 学校関係者評価委員会

日時：令和8年2月20日（金）

15：00～16：45

場所：会議室

(1) 開会

(2) 校長挨拶

委員の方々においては、日頃の様々な協力に関して感謝している。地域活動を通じて、生徒の教科以外の力も伸ばすことができた。生徒が成長を実感できるように働きかけをしていきたいと考えている。また、教職員が組織として同じ方向を向き、具体的に生徒の力をどう伸ばすか考えるための「土台」ができた1年であった。

(3) 学校経営計画年度末評価について

各課・年次説明

教務課長

教員の授業力向上を目的に、年3回の研修講座を実施した。放課後の多忙な時間帯ながら8～9割の教員が参加し、アンケートでは89.3%が授業改善への意識が高まったと回答した。今後は実際の授業がどう変化していったのかを追っていききたい。広報面では、年間計画に基づきホームページや「勝高Voice」を更新・発行し、特に3年生の合格状況をトップページに掲示するなどの改善を行った。次年度の新入生は100名を超える見通しであり、広報の成果が一定程度あったと評価し、評価は「A」としている。

進路課長

探究活動「夢現プロジェクト」において、1年生が地元企業計20社を訪問した。90%以上の生徒が進路研究に役立ったと回答している。進学面では、国公立大学の合格者が現在25名（岡山大7名等）と例年を大きく上回っている。就職希望者も内定率100%で、公務員合格者も出ている。教員研修への参加も積極的で、平均14回という高い数字となった。評価は「A」としている。外部模試の結果では、特に2年生の中位層の引き上げが課題である。生徒が自分事として学習に取り組む工夫が必要だと考えている。

生徒課長

SNSでの情報発信を強化し、Instagramでは年間80回以上の投稿と10本のリール動画を公開した。ボランティア活動への参加も活発で、9割以上の生徒が充実感を抱いているため、評価は「A」とした。

厚生課長

保健所や警察署等と連携した健康・防災教育により、95%以上の生徒が命を守る意識を持っているとのアンケート結果があり、評価は「A」とした。

年次団（主幹教諭）

1年生については、学校側の指導に満足したと生徒は回答しているが、自身の学習努力や進路研究への取り組みの自己評価が68%と低く、目標に届かなかったため「B」評価とした。2年生については、進路目標の明確化やオープンキャンパス、ボランティアへの参加率が目標をやや下回ったため「B」評価した。3年生については、進路満足度100%、第一志望決定率82.2%と成果が出たため「A」評価とした。

質問・意見交換

委員A

新入生が100名を超える見通しとのことだが、具体的な手応えはあったのか。また「勝高Voice」はどこへ配布しているのか？

教務課長

中学校向けの学校説明会や部活動単位での中高合同練習が募集に効果的であったと感じている。市内の中学生全員、さらに近隣市町の一部の中学校にも配布し、市役所や振興局、小学校にもポスターを掲示している。

委員A

今年度、学校推薦型等の入試で例年以上の成果を上げることができたのは、何が要因だと考えられるのか。

進路課長

早めから進路意識を高めることができ、3年生になるとときには具体的な進路志望が明確な生徒が多かった点や、個別指導を細かく行えた点などが挙げられる。

委員B

ボランティアを通して地域と関わる中で、生徒に得るものが多ければこちらもよかったと思っている。また、先生方の研修への積極的参加は素晴らしい。SNS発信は、中学生や地域の方々が勝山高校を身近に感じられる良い取り組みだと考える。

委員C

勝山高校にもインパクトのある広報の材料があればよい。近隣中学校との密な連携や合同の活動を行っていくことが良いのではないか。寮の整備とともに、教員養成プログラムなどを活用して、全国へ広報の域を広げていくこと、またその作戦を練ることも大切だと考える。

委員D

岡山大学に合格した生徒については、必ずしも質が高いわけではない部分もあった。学校評価には、「できたことの確認」だけでなく、「次年度への具体的な課題」を明記すべきである。アンケートを分析すると、生徒・保護者・教員ともに「家庭学習（予習・復習）と授業の連携」に課題を感じていることが明確であるので、教員自身も課題の出し方に迷いがあるのではないか。これを学校全体の共通課題として取り組むべきだと考える。

委員E

今年度の進路実績は素晴らしいが、早く合格が決まった生徒が大学入学後に意欲を低下させないように、合格後の学習継続や「大学で何をするか」という視点での指導を徹底してほしい。学習習慣のない生徒は、大学入学後に苦労する。広報については、SNS発信などの多くの発信を、どれだけ中学生が見ているかを把握すべきである。また、広報には多くの生徒を参加させる方がよい。そこに学校の魅力が現れる。

委員F

秋ごろから、生徒の多様な質問にも対応するようになった。志望理由書などについての質問も多くなったので、先生方とも連携を図っていきたい。また、高校時代に地域活動を頑張っていた子が、大学進学後に

地域から離れてしまうのを残念に感じている。卒業後まで見据えたキャリア教育が大切である。また、我々と先生が直接対話する研修機会を設けることで、地域全体で学校を支える雰囲気を作れるはずである。「勝高 Voice」については、Instagramにも上げられるとよい。

(4) 協議

委員D

次年度は、「子供のために教員が学ぶ学校」を重点目標に掲げ、教員が学ぶ姿勢を示すことで生徒を牽引し、先述した「家庭学習と授業の連携」による学習サイクルの確立に注力するのがよいのではないか。

副校長

頂いた指摘を踏まえて、次年度の学校経営計画を作成していく。

(5) その他

次年度の委員継続について確認を行った。

(6) 閉会